

北九州市の河川再生の取り組みについて

蘇った撥川 ばちがわ

■ はじめに

北九州市では、昭和28年の西日本大水害で多くの尊い命が失われ、洪水対策として治水優先の河川改修を急ピッチで進めました。

その結果、人々は水害に悩むことのない安全な生活を手に入れました。しかし、その反面コンクリートで固められた川は、急速に魅力を失い、もはや川としての認識さえ失いつつある河川もあります。

川は、都市部において唯一、自然の生態系を復元できる場所であり、人々が身近に自然にふれあい、親しめる貴重な場所でもあります。

そこで、ここでは撥川における河川再生の取り組みについて、紹介いたします。

■ 撥川河川再生事業

平成7年度に当時の建設省が、国庫補助事業として河川再生事業を創設し、その第1号として東京都の渋谷川、大阪市の道頓堀川とともに選ばれたのが、

北九州市の副都心黒崎を流れる撥川です。撥川は、これまでコンクリートとフェンスで隔絶された、ただの水路でしかありませんでした。

この撥川を、もう一度魚が住み、植物が生え、人々が水辺に近づける川に蘇らせようと、多くの市民が関わって、平成9年に「撥川ルネッサンス計画」を策定しました。

- ① 環境と共生し、人の感性・五感に訴える川づくり
- ② 人々に親しまれ、地域の顔となる川づくり
- ③ 撥川を軸とした、にぎわいの都市空間づくり

この3つを基本テーマに設定し、第1期事業区間(約2.1km)の平成17年度完成を目指して整備を行っています。

現在、一部区間では、新しく蘇った川に水が流れ始め、川辺には植物が芽吹くなど、川の再生が現実のものとなっています。

北九州市 建設局 水環境課 中村 聖



整備前



整備後

INFORMATION & NEWS

平成14年度は色々な展示会に出展しました

下記の3つの展示会に出展しました。

- ・ 第5回河川環境展
(幕張メッセ 2002.11/26～29) [写真1]
- ・ 建設技術フェア in 中部 2002
(名古屋ドーム 2002.11/27～28) [写真2・3]
- ・ 水のEXPO / 第3回世界水フォーラム
(インテックス大阪 2003.3/18～22) [写真4]



1. 河川の問題を河川の特徴に関連づけて解説しました。またそれらに関連する取り組みを、パネルや飼育展示、デジタル展示で紹介しました。このブースは小学生の見学ブースにも選ばれました。



2. 川の出水の様子を、様々な角度から捉えた映像で体験できる展示を公開しました。フィールドでは見られない水中の様子等を熱心に観察する姿が見られました。



3. 真っ直ぐな川と曲がった川に同時に砂を流すと、どんな風に砂は溜まるのかな? 水路模型で体験しました。触って体験できるこの模型は、現在、中部技術事務所・建設技術展示室にあります。



4. 河川の現実的問題と、その問題の改善・解決に向けて行っている研究の成果を、映像やパネルを使ってわかりやすく解説しました。研究担当者が現場で解説しました。

第2回自然共生研究センター
研究報告会を開催しました

名古屋(2003.1.31)及び東京(2003.2.14)において、2度目の研究報告会を実施しました。

今回は自然共生研究センターで実施している研究だけでなく、活用研究者(大学・企業)からの報告も行われました。



名古屋会場の様子

魚の産卵 ～コイとニゴイの遡上と産卵～

春はたくさんの生命が誕生する季節。共生センターの周辺でも一斉に緑が芽吹き、川の中にもたくさんの小さな命が誕生しました。卵を産むために4月中旬にはコイが、5月初めにはニゴイが木曽川から新境川へ遡上してきました。どちらも同じコイ科ですが、産卵する場所に大きな違いが見られました。コイは流れが緩やかで、河床が砂のような

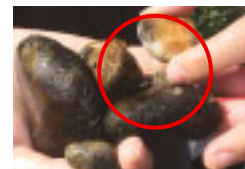
場所の水草に卵を産み付け、ニゴイは流れの速い、河床が礫でできた場所で石に卵を産み付けていました。成熟した雄に見られる顆粒状の追星を口周辺、胸びれ、腹びれに見ることが出来ました(写真1・2)。センターではこの卵を採取し、孵化させました。元気に泳ぎ回っているコイの赤ちゃん達をぜひ見に来てください。



1. 口周辺の追星



2. 胸びれの追星



3. 石に産み付けられたニゴイの卵



独立行政法人 土木研究所
自然共生研究センター
AQUA RESTORATION RESEARCH CENTER
Incorporated Administrative Agency Public Works Research Institute

〒501-6021

岐阜県羽島郡川島町笠田町官有地無番地

Tel 0586-89-6036 Fax 0586-89-6039

URL <http://www.pwri.go.jp/>

発行：独立行政法人 土木研究所 自然共生研究センター

ARRC NEWS No.6 2003年6月



古紙配合率100%
再生紙を使用しています。

交通のご案内

自動車をご利用の場合

東海北陸自動車道岐阜各務原ICより10分
(研究棟へは河川環境楽園・西口駐車場が便利です)
川島PAより徒歩で来ることができます。

電車をご利用の場合

名鉄新名古屋駅または新岐阜駅から笠松駅へ
笠松駅からタクシーで10分(笠松駅からの交通はタクシーのみです)

自然共生研究センターの英訳は、Aqua Restoration Research Center 略してARRC。この略称の発音が期せずして Noah's ark(ノアの方舟)と同じになった。

